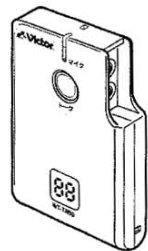


ポータブルトランシーバー

型名 WT-TR50-B/W

技術基準適合証明



— お買い上げありがとうございます —

ご使用前に、この「取扱説明書」と別冊の「電池の取扱いについてのご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。特に「電池の取扱いについてのご注意」は必ずお読みいただき、安全にお使いください。

そのあと保証書と一緒に大切に保管し、必要なときお読みください。

製造番号は品質管理上重要なものです。お買い上げの際は本機に製造番号が正しく表示されているか、またその製造番号と保証書に記載されている製造番号が一致しているかお確かめください。

LST0404-001B

ご注意

- 本機には、「技術基準適合証明」をあらわす証明ラベルが貼ってあります。証明ラベルをはがしたり、破いたりすると、サービスを受けられないことがあります。大切に扱ってください。
- バッテリーを使わないときは、涼しい乾燥した場所に保管してください。高温になる場所（直接日光の当たる場所など）に放置しないでください。液漏れや寿命を早める原因になります。
- バッテリーの端子部が汚れていると、動作時間が短くなります。汚れた場合は、乾いたきれいな布などでふき取ってください。
- バッテリーの充放電回数は約300回です。300回以下であっても動作時間が大幅に短くなったら、バッテリーの寿命と見なされます。新しいものをお買い求めください。
- 不要になったバッテリーは、貴重な資源を守るために廃棄しないで充電池リサイクル協力店へお持ちください。



Li-ion

特長

- 特定小電力無線局用400MHz帯の電波を使用した10mW送信出力のポータブルトランシーバーです。
- 無線免許および申請手続きは不要ですので、設置していただいたその日からご使用になります。
- 交互通話方式であり、システム内のポータブルトランシーバーの台数に制限はありません。
- 設定により、リピーターWT-T50と組み合わせ使用することができます。
- チャンネルは、リピーターWT-T50なしの場合は20チャンネル、リピーターWT-T50ありの場合は27チャンネルの中から選択できます。
- バッテリー単体での充電ができ、バッテリーを取り換えることにより、ポータブルトランシーバーを24時間使用することができます。バッテリー1個の連続使用時間は、約13時間です。（4時間充電、リピーターなし、10%使用率の場合。使いかたによって、連続使用時間は変化します）

故障かな？と思ったら

症状	考えられる原因	処置
電源が入らない 受信できない	バッテリーが消耗している イヤホンが正しく接続されていない 音量が小さい	充電してください イヤホンを正しく接続してください 音量を適切な大きさに上げてください
送信できない	チャンネルが合っていない リピーターあり/なし設定が合っていない コントロールマイクホンを使用している場合、コントロールマイクホンが正しく接続されていない 他の人が同じチャンネルで通話をしている 同じチャンネルを他のシステムで使っている。または、妨害波がある（動作ランプが赤点灯）	チャンネルを合わせてください リピーターあり/なし設定を合わせてください コントロールマイクホンを正しく接続してください 通話が終了してからトークボタンを押してください チャンネルを変更してください
通話が途切れる	リピーターがないシステムの場合、他のポータブルトランシーバーと、リピーターがあるシステムの場合はリピーターとの距離が近い	リピーターがないシステムの場合は他のポータブルトランシーバーと、リピーターがあるシステムの場合はリピーターの近くに移動してください

お客様相談センター

0120-2828-17

携帯電話・FAX: 045-450-8950 (代)

常設 (045) 450-2275

FAX (045) 450-2275

〒221-8529 横浜市神奈川区磯子3-12

日本ビクター株式会社

〒192-8620 東京都八王子市石川町2969-2

電話 (042) 660-7203

© 2007 Victor Company of Japan, Limited

LST0404-001B

安全上のご注意



- 機器を分解・改造しない。
火災・感電の原因となります。また、ポータブルトランシーバーの改造は法律でも固く禁じられています。
- 強い衝撃を与えたり、投げつけたりしない。
機器の故障や、バッテリーの液漏れ・発火・破裂・火災の原因になります。
- 機器に水を入れたり、ぬらさない。
火災・感電・故障の原因となります。
- 専用のバッテリーとチャージャーを使用する。
指定外のバッテリーまたはチャージャーを使用すると、バッテリーの破裂・火災・故障の原因となります。

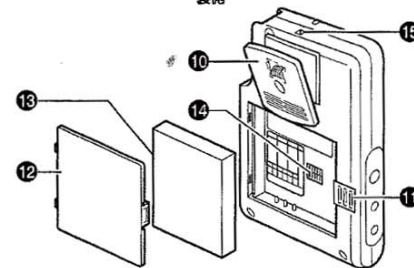


各部のなまえとはたらき



- 1 電源ボタン
電源をON/OFFします。ボタンを1秒以上押し続けることでON/OFFできます。
- 2 チャンネルボタン (+)
チャンネルを表示させたり、チャンネル/音量を上げたりするときに押します。
- 3 音量ボタン (-)
音量を表示させたり、チャンネル/音量を下げたりするときに押します。
- 4 トークボタン
内蔵マイクで通話するときに押します。
コントロールマイクホン（別売）を接続したときは、使用できません。
- 5 動作ランプ
動作状態を表示します。
消灯：電源OFF オレンジ点灯：受信中または送信中
緑点灯：待ち受け中 赤点灯：妨害波受信
※各状態において、バッテリー残量が少ない場合は点滅になります。
- 6 チャンネル/音量表示
チャンネルまたは音量を表示します。
2桁で表示しているとき：チャンネル表示
1桁で表示しているとき：音量表示
- 7 内蔵マイク
小型マイクが内蔵されています。
コントロールマイクホン（別売）を接続したときは、使用できません。

裏側



- 8 マイク端子*
- 9 イヤホン端子*
イヤホン（別売）を接続します。
*コントロールマイクホン（別売）を接続します。
※適合機種: WT-UM50, WT-UM8, WT-UM12, WT-UM33
- 10 クリップ
本機を衣服などへ固定するときに使用します。
- 11 ロックレバー
バッテリーカバーを取り付けたり、取りはずしたりするときに使用します。
- 12 バッテリーカバー
バッテリーを保護するカバーです。
- 13 バッテリー（消耗品）
専用バッテリーです。
バッテリー（型名: WT-UB50）をお買い求めになるときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。
- 14 設定スイッチ
ブザー・音量・ノイズスケルチ、動作モードを設定します。
- 15 ストラップ孔
ハンドストラップ/ネックストラップ取り付け用孔

主な仕様（本機の仕様および外観は、改修のため予告なく変更することがあります）

通 信 方 式	：単信方式または半復信方式
電 波 方 式	：F3E
送 信 周 波 数	：リピーターなし時：422.0500 MHz ~ 422.3000 MHz リピーターあり時：421.5750 MHz ~ 421.9125 MHz
受 信 周 波 数	：リピーターなし時：422.0500 MHz ~ 422.3000 MHz リピーターあり時：440.0250 MHz ~ 440.3625 MHz
空 中 線 電 力	：10 mW
発 振 方 式	：水晶制御PLLシンセサイザー方式
変 調 方 式	：周波数変調方式
受 信 方 式	：ダブルスーパーヘテロダイナ方式
受 信 感 度	：0 dBμV EMF以下 (12 dB SINAD)
アンテナ	：ヘリカル型内蔵
送 受 信 距 離	：リピーターなし時：約40 m リピーターあり時：リピーター中心に半径約40 m ~ 60 m ※実際の送受信距離は、設置場所や障害物などにより異なります。
電 源	：DC3.6 V (専用充電式電池)
消 費 電 流	：180 mA以下
使 用 時 間	：約13時間 （満充電時、リピーターなし、10%使用率の場合）
動作温度範囲	：-10℃ ~ 40℃
質 量	：約70 g (バッテリー含む)
外 形 寸 法	：54 mm (幅) × 85 mm (長さ) × 16 mm (厚み) （突起部含まず）
仕 上 げ	：PC+ABS樹脂、ダークブルー (WT-TR50-B)、ライトブルー (WT-TR50-W)
添付物・付属品	：バッテリー……………1 クリップ……………1 ネジ (クリップ用)……………1 取扱説明書……………1 保証書……………1 電池の取扱いについてのご注意……………1 ビクターサービス窓口案内……………1

保証とアフターサービス（必ずお読みください）

- 保証書の記載内容のご確認と保存について
この商品には、保証書を別途添付しております。保証書はお買い上げ販売店でお渡しいたします。所定事項記入および記載内容をご確認いただき、大切に保存してください。
- 保証期間について
保証期間はお買い上げ日より1年間です。保証書記載の内容により、お買い上げ販売店が修理いたします。その他詳細は保証書をご覧ください。
- 消耗品について
下表は消耗品の一覧です。これらの部品交換にともなう部品代および技術料、出張料を含む修理費用は保証期間内でも有料となります。

商品名	型 名
バッテリー	WT-UB50

- 保証期間経過後の修理について
保証期間経過後の修理については、お買い上げ販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料にて修理いたします。
- アフターサービスについてのお問い合わせ先
その他アフターサービスについてご不明の点は、お買い上げ販売店または最寄りのビクターサービス窓口にご相談ください。

- 修理を依頼されるときは
調子が悪いときは、この取扱説明書をもう一度ご覧になってお調べください。簡単な調整で直る場合があります。それでも調子が悪いときは、お買い上げ販売店にご相談ください。

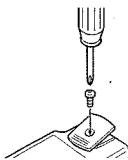
- 商品名：ポータブルトランシーバー
- 機種名：WT-TR50-B/W
- 故障の状態をできるだけ詳しく
- ご購入年月日
- ご住所 ご氏名 電話番号

- 商品廃棄について
この商品を廃棄する場合は、法令や地域の条例に従って適切に処理してください。

クリップの取り付け方

- 付属のネジで④ドライバーを使って取り付けます。

※位置決め用の突起に注意してください。

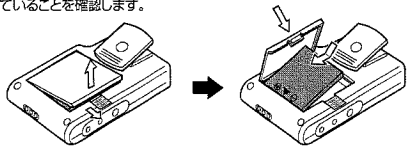


バッテリーの取り付け方、取りはずし方

バッテリーの取りはずしは、動作ランプが消灯していることを確認してから行なってください。

■取り付け方

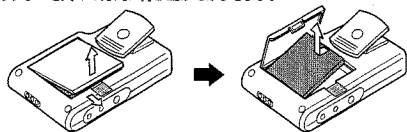
- ロックレバーを右へスライドさせながら、バッテリーカバーを持ち上げてはします。
- バッテリーを矢印の方向から入れます。
- 本体とバッテリーカバーの左側を合わせてかぶせたあと、ロックレバーを右にスライドさせてはします。バッテリーカバーとロックレバーがきちんとかみ合っていることを確認します。



※バッテリーの方向に注意してください。

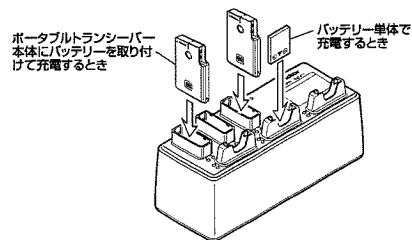
■取りはずし方

- ロックレバーを右へスライドさせながら、バッテリーカバーを持ち上げてはします。
- バッテリーを矢印の方向に持ち上げてはします。



充電のしかた

- お使いになるときは、あらかじめ専用チャージャーWT-C15で充電（約4時間）してください。
- 充電するときは、ポータブルトランシーバーの電源をOFFにしてください。
- 専用チャージャー本体WT-C15の充電中の赤ランプが点滅するときは、もう一度入れなおしてください。
- 詳しい充電のしかたは、専用チャージャーWT-C15の取扱説明書をお読みください。



●注意

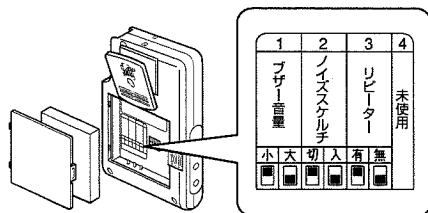
- 本機を充電するときは、専用チャージャーWT-C15以外使用しないでください。他の充電器を使用すると、火災や故障の原因となります。
- 本機を充電中、発熱を覚したり、発熱したり、変色・変形その他今までと異なることに気がついたときは、ただちに充電器から取り出し、充電器の電源プラグをコンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。そのままご使用すると火災や感電の原因となります。

●メモ

- ポータブルトランシーバーをご使用中に、イヤホンから「ピピ、ピピ、……」（約10秒間）というアラーム音が鳴り、動作ランプが点滅する場合は、バッテリーが消耗しています。速やかに、充電を行なってください。
- バッテリー（型名:WT-UM50）をお買い求めになるときは、お買い上げ販売店にお問い合わせください。

設定スイッチの設定のしかた

プザー音量、ノイズスケルチ、リピーター有/無を設定します。設定スイッチの操作は、電源をOFFにして動作ランプが消灯していることを確認してから、バッテリーカバーおよびバッテリーははずして、行います。



●メモ

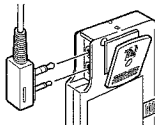
- リピーター有/無設定を「無」に設定すると、リピーターWT-T50は不要です。ポータブルトランシーバーから送信された電波を、他のポータブルトランシーバーで直接受信します。
- リピーター有/無設定を「有」に設定すると、リピーターWT-T50が必要で、ポータブルトランシーバーから送信された電波は、リピーターで異なる周波数の電波に変換されて送信され、他のトランシーバーはリピーターから電波を受信します。
- ノイズスケルチ機能とは、受信中にノイズが多くなった場合に受話を無音にしてノイズを緩和する機能です。通常は「入」で使用します。「切」に設定すると受信範囲が多少広くなりますが、ノイズ成分が多く耳障りを感じる場合もあります。

コントロールマイクロホン、イヤホンの接続のしかた

- 電源ONする前にコントロールマイクロホン（別売）またはイヤホン（別売）を接続します。
 - ・コントロールマイクロホン適合機種:WT-UM50、WT-UM8、WT-UM12、WT-UM33
 - ・イヤホン適合機種:WT-UE50
- コントロールマイクロホンを接続すると、ポータブルトランシーバーのトークボタンおよび内蔵マイクは使用できなくなります。
- 別売のコントロールマイクロホン、イヤホンの取扱説明書も必ずお読みください。

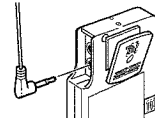
■コントロールマイクロホンを接続する場合

- ・コントロールマイクロホンのマイクで話します。（ポータブルトランシーバーの内蔵マイクは使用できません）
- ・イヤホンはコントロールマイクロホン本体に接続します。



■イヤホンを接続する場合

- ・ポータブルトランシーバーの内蔵マイクで話します。



●注意

- 適合機種のコントロールマイクロホンをご使用ください。音量が適切に設定できない原因となります。
- プラグの抜き差しは、必ず電源を切った状態で行ってください。雑音や誤動作の原因となる事があります。
- 接続するときは、プラグを最後まで挿入してください。使用中に通話できなくなった、プラグが抜けたらります。また、雑音発生の原因となる場合があります。
- コードを引っ張らないでください。断線の原因となります。必ずプラグを持って抜いてください。
- プラグの金属部を手でさわったりしないでください。接点不良の原因となります。汚れた場合は、乾いたきれいな布などでふき取ってください。

操作

電源ON/OFFのしかた

■電源ONのしかた

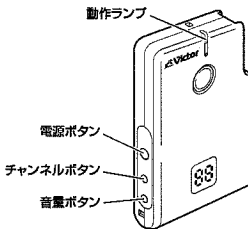
- 1.ポータブルトランシーバーにコントロールマイクロホン（別売）を接続します。
- 2.電源ボタンを、動作ランプが点灯するまで押し続けます。（約1秒以上）
- 3.音量を確認後、イヤホンを耳に装着します。

■電源OFFのしかた

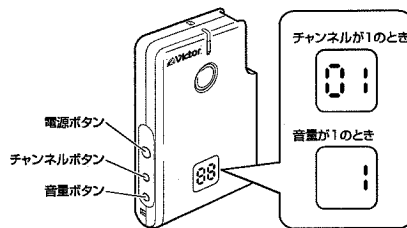
- 1.イヤホンを耳からはします。
- 2.電源ボタンを、動作ランプが消灯するまで押し続けます。（約1秒以上）

●メモ

電源ONした後の約4秒の間、チャンネル/音量表示に現在設定されているチャンネル番号を表示します。（約4秒経過すると自動的に消灯します）



チャンネル、音量の確認および設定のしかた



■チャンネルの確認のしかた

- 表示が消灯している状態でチャンネルボタンを押すと、現在設定されているチャンネルがチャンネル/音量表示に2桁で表示されます。

■チャンネルの設定のしかた

- チャンネル/音量表示にチャンネルが表示されているときに、チャンネルボタンを1回押すとチャンネルが1つ上がり、音量ボタンを1回押すとチャンネルが1つ下がります。
 - ・チャンネル設定範囲
リピーターなしのとき：01～20
リピーターありのとき：01～27
 - ・表示が最大値のときチャンネルボタンを1回押すと最小値になり、最小値のときに音量ボタンを1回押すと最大値になります。

●メモ

- チャンネル/音量表示の表示は、チャンネルボタンまたは音量ボタンが約4秒間押されない、自動的に消灯します。このとき、表示されていたチャンネルがポータブルトランシーバー内部に保存されます。
- トークボタンを押している間は、チャンネルの確認および設定はできません。

■音量の確認のしかた

- 表示が消灯している状態で音量ボタンを押すと、現在設定されている音量がチャンネル/音量表示に1桁で表示されます。

■音量の設定のしかた

- チャンネル/音量表示に音量が表示されているときに、チャンネルボタンを1回押すと音量が1つ上がり、音量ボタンを1回押すと音量が1つ下がります。
 - ・音量設定範囲:1（最小）～5（最大）
 - ・表示が5（最大）のときにチャンネルボタンを押しても設定は変わりません。表示が1（最小）のときに音量ボタンを押しても設定は変わりません。

●メモ

チャンネル/音量表示の表示は、チャンネルボタンまたは音量ボタンが約4秒間押されない、自動的に消灯します。このとき、表示されていた音量がポータブルトランシーバー内部に保存されます。

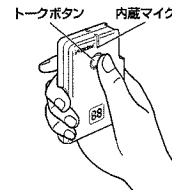
通話を聞くととき

- 電源ON状態でトークボタンを押していないときは、待ち受け、または、受信状態です。
- 待ち受け状態からシステムの電波を受信すると自動的に受信状態になり、イヤホンから音声が届いてきます。（操作は不要です）
- 動作ランプは、待ち受け状態で緑点灯、受信状態でオレンジ点灯になります。

通話をするとき

■内蔵マイクで通話をするとき

- 1.電源ON状態で、本体のトークボタンを押します。
 - ・イヤホンから「プー」という音が聞こえます。
- 2.「プー」という音が止まったら、トークボタンを押したまま、内蔵マイクに向かって話します。
 - ・動作ランプは、オレンジ点灯になります。
 - ・マイクと口もとを2～3cm程度はなしてお使いください。
- 3.話し終わったら、トークボタンをなします。
 - ・動作ランプは、緑点灯になります。



■コントロールマイクロホン（別売）で通話をするとき

- 1.電源ON状態で、コントロールマイクロホンのトークボタンを押します。
 - ・イヤホンから「プー」という音が聞こえます。
- 2.「プー」という音が止まったら、コントロールマイクロホンのトークボタンを押したまま、マイクに向かって話します。
 - ・動作ランプは、オレンジ点灯になります。
 - ・ポータブルトランシーバーにコントロールマイクロホンが接続されているときは、ポータブルトランシーバーのトークボタンおよび内蔵マイクは使用できません。
- 3.話し終わったら、コントロールマイクロホンのトークボタンをなします。
 - ・動作ランプは、緑点灯になります。



●メモ

- 「プー、ピ、ピ、プー」あるいは「ピ、ピ、プー」という音が聞こえたときは、下記の場合が考えられます。
 - ・すでに他の人が同じチャンネルで通話をしている。
 - ・通話が終了してからトークスイッチを押してください。
- 「プー、プー、プー」という音が聞こえたときは、下記の場合が考えられます。
 - ・リピーターがあるシステムの場で、リピーターから遠いため電波の迷入が考えられます。
 - ・リピーターの近くまで移動してください。
- 通話して通話できる時間は、最大3分です。3分以上通話を続けると、2秒間通話が終わると、自動的に消灯します。その後また3分間通話が行えます。
- 動作ランプが点灯している場合は、同じチャンネルが他のシステムで使用されているか妨害波がある可能性があります。同じシステム内の他のポータブルトランシーバー、リピーターを含めて、チャンネルを変更してください。

チャンネルのロック/ロック解除のしかた

チャンネルボタンや音量ボタンへ不用意に触れても、チャンネルの設定が変わらないようにすることが出来ます。

- 1.チャンネル/音量表示が消灯していることを確認します。
- 2.チャンネルボタン（+）を押しながら、音量ボタン（-）を約3秒間押し続けます。
 - ・チャンネル番号が点灯表示から点滅表示になると、チャンネルロック状態となります。
 - ・チャンネル番号が点滅表示から点灯表示になると、チャンネルロック解除状態となります。

●メモ

- チャンネルロック/ロック解除の状態は、トランシーバー内部に保存されます。
- チャンネルロック状態では、チャンネル番号は点滅表示になります。このとき、チャンネルを変更することはできません。
- チャンネル番号が表示されている状態では、チャンネルのロック/ロック解除はできません。